

2025年 12月 浜松聖書集会のご案内

(時間：午前10時 ~ 正午)

- 12月 7日 (日) 集会 (クリエート浜松 21号室)

司会：大手 美千代

聖書講話：マタイによる福音書 13章24~30節

「土曜学校講義 アウグスチヌス『告白』を読む その2」 永井 徹

- 12月14日 (日) 集会 (クリエート浜松 22号室)

司会：武井 めぐみ

聖書講話：マタイによる福音書 2章13~23節

「ヘロデ 幼な子を皆殺しに イエス エジプトに避難する」 武井 陽一

- 12月21日 (日) クリスマス集会 (クリエート浜松 22号室)

司会：武井 陽一 10時~13時半まで

聖書講話：ガラテヤ書 4章4節

「真実なる御子イエスの誕生」 水戸 潔

感話会 (一人3分程度) 愛餐会

お弁当、お菓子を用意しますので、出席者は武井まで申込み下さい。食事代800円。

・・・通 信・・・

- 12月28日 (日)、集会は休みとします。

- 2026年の聖書集会当番について

別紙の通り案を作成しました。ご覧になって自分の担当で都合が悪いところや負担がありましたら、武井まで お知らせ下さい。

飼葉おけの中のイエスにまで辿りついた者たち 溝口 正

いち早く神からの告知を受けたのはなんと野宿していた羊飼たちでありました。祭司でも学者でも、いわんや地上の王などではありませんでした。それはどうしてでしょうか。

マタイによる福音書では、東方の博士たちが神様に用いられて、はるばる異邦の地からベツレヘムまで「主なるキリスト」を礼拝にやって参ります。博士というのは怪しげな術をつかう異邦人の星占師であります。旧約聖書を持ち神に選ばれた民であると自認していたイスラエルが、まだ主の降臨を全く知らないでいるときに、なんと神を知らない異邦人の星占師が真先に神の告知を受け、導かれるままに「主なるキリスト」のみもとに連れて来られたのであります。これはまたどうしたことでありましょう。

こうみてきますと、卑しい身分の羊飼いたちにしても、あるいは異邦人の星占い師の博士たちにしても、神が一方的に御心にかなう者として選び、彼らに主の降誕の事実を告知し、彼らはこの告知を素直に単純に信じて、神の導きに御心をゆだね、遂に飼葉おけの中のイエスにまで辿りついたのであります。ここで彼らは「主なるキリスト」と対面して、神の告知の真実に驚嘆し讃美の声をあげたのであります。宿屋にいた大勢の人々は肉眼でイエスを見ながら「主なるキリスト」を見ることができなかったのに、これはまたどうしてでありましょうか。この両者のちがいは、私共に決定的に重要な問題を提起してはいないでしょうか。すなわち、イエスにおいて「主なるキリスト」を見ることができるのは、肉眼ではなく、神の与え給う信仰の目だけであるということでありました。これは二千年前も今日の時代も全く変りない現実であります。信仰なくして光を見ることは絶対にできない。

こうして羊飼いたちと博士たちは、救主の誕生を人々に告げ知らせる者として神に用いられたのであります。 『飼葉おけの中から』 『復活』154号 1978年12月